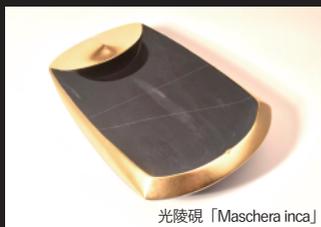


# 作家で綴る - 伝統工芸の魅力

2025年9月に開催予定の日本伝統工芸展に向け、日本伝統工芸東海支部の先生方による連続文化講座を開催します。工芸をもっと身近に！工芸の魅力をもっと知りたい！という方必見です。大人の知的好奇心を刺激する文化講座。作家リレー形式で開催します。



光陵硯「Maschera inca」

## 第1回 五代名倉鳳山 《心の器～硯刻の味わい》

5月27日(火) 13:30～15:00

日本人の美意識と精神を表現する「心の器」硯作り。硯という概念に捉われない展開を見せる名倉鳳山。漆黒の中にこめられた硯の造形美、そこから見える用の美を堪能します。



1953年生まれ  
東京藝術大学彫刻科卒業後、家業であった硯造りの道へ。新城市無形文化財に指定される



染付藍彩扁壺

## 第2回 太田公典 《青と白の容～進化する染付》

6月18日(水) 13:30～15:00

世界各国で唯一、同じ技法でつくられている染付。太田公典は異なる濃度の呉須で立体的な空間を作り出し、新たな染付技法の展開を見せます。抽象絵画のような染付の世界を紹介します。



1953年生まれ  
東京藝術大学大学院美術研究科修了。愛知県立藝術大学教授(2019年まで)



三彩鉢

## 第3回 鈴木 徹 《多様化する緑釉の世界》

7月16日(水) 13:30～15:00

「いままでになかったもの。それでいて力強く、存在感のある作品を」と伝統の踏襲だけにはとどまらない、作家・鈴木徹の世界観を掘り下げます。



1964年 人間国宝鈴木蔵の長男として生まれる。1988年、京都府立陶工職業訓練校卒業。2024年 多治見市無形文化財「織部」指定



黒柿茶器

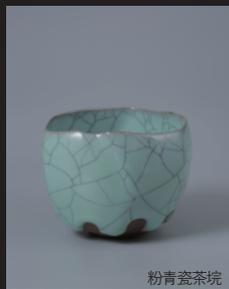
## 第4回 川口清三 《銘木と称される木と木工作品》

8月28日(木) 13:30～15:00

ノミやカンナで木の塊を削り出して形をつくる割物(くりもの)技法で自由な造形と美しい木目を生かした作品を手掛ける川口清三のルーツを辿ります。



1962年生まれ  
愛知教育大学美術科卒業後、指物屋にて就職。その後割物での制作を展開し、2020年紫綬褒章授章



粉青瓷茶碗

## 第5回 若尾誠 《粉青瓷～唯一無二の表現を求めて》

9月18日(木) 13:30～15:00

素地が陶土の「粉青瓷(ふんせいじ)」を手掛ける若尾誠。緩やかにうねりを帯びたボディに、美しく不透明な青い釉薬と、貫入の景色が絶妙な作者の表現力に迫ります。



1959年生まれ。  
1980年家業の傍ら作陶を志す。若尾利貞氏に師事。2011年 岐阜県伝統文化継承功績者顕彰(青瓷) 授与

要申込み  
お電話にて  
お申し込みください

定員：22名 参加費：各回 1,000円

別途古川美術館・分館為三郎記念館の両館共通券が必要となります。

古川美術館パスポート会員を募集しています  
一年間何度でも古川美術館と為三郎記念館にご入館いただけます。

新規入会金 5,000円 ペア割引 4,000円

公益財団法人 古川知昆会 古川美術館 分館 為三郎記念館

〒464-0066 名古屋市中千種区池下町2丁目50番地

TEL 052(763)1991

FAX 052(763)1992

ホームページアドレス <https://www.furukawa-museum.or.jp/>



お申込み